

③個人追究:求め方や利用した計算法則を説明する。

②学習課題:数を分けたりまとめたりして，100を利用した計算方法を考えよう。

②見通し:アは100がある。イ，ウも見積もりができるだろうか。

→100が作れれば，工夫して計算ができそうだ。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・前学年までに，交換，結合，分配法則を学習している。

・4学年で，四則計算や（　）があるときのきまりを学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数を分解，合成して，暗算のできる数に変形できる場合があることに気づいている。

≪学習問題≫

工夫して，次の計算をしましょう。

ア 45＋92＋8　　イ 25×36　　ウ 99×56

教材研究ノート№4-A-7

⑥定着･活用問題

さちよさんは，25×32を，次のように計算しました。

　　　25×32＝25×（4×8）

　　　　　　＝（25×4）×8

　　　　　　＝100×8

　　　　　　＝800

さちよさんの，計算の工夫を説明しましょう。

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・100をつくって計算すると，簡単に計算できる。

・交換法則，結合法則，分配法則が使えるように，数を分解，合成することができる。

④共同追究後半（思考を深める）

「数を分けたりたしたりして，計算してもよいのだろうか？」

→「かけ算はたし算に直せるから，分けたり合成したりしても計算できる。」

④共同追究前半（解法の比較検討）

「計算方法に，共通していることはなんだろう？」

→「数の分解，合成を使って100をつくって計算している。」

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・数の操作で理解できる子どもと，図を関連付けることで理解できる子どもがいるので，個人追究の中で説明をした言葉や図を取り上げ，双方向から扱いたい。

・この学習をきっかけとして，整数を積の形に分解（因数分解）する短時間のドリルを位置付けることも，数の感覚を豊かにするために有効である。